

バードリサーチ ニュース

2008年6月号 Vol.5 No.6



Glareola maldivarum

Photo by Watanabe Yoshiro

参加型調査

サシバの生息状況アンケート調査 調査結果報告

植田 睦之

2006年12月に環境省から発表されたレッドリストでは、サシバが新たに絶滅危惧種に指定されました。このように減少してしまったサシバの現状とその減少の原因を明らかにしようと日本野鳥の会、日本オオタカネットワークと岩手大学が合同で行なうアンケート調査にバードリサーチも協力しています。2007年10月号のニュースレターでご協力をお願いしたところ、会員の皆さんからもたくさんの情報をお送りいただきました。他の会からの情報もあわせて、104名のみなさんにご協力いただき、全国35都道府県より、91件の生息状況の情報と、185件の繁殖状況の情報をいただきました。



写真: サシバの親子。

[Photo by 内田博]

1. 減り続けているサシバ

同様のアンケートを10年前にも実施しているのですが、そのときには東北地方から寄せられた答えにサシバが増加しているというものがありませんでした。しかし、今回のアンケートには増

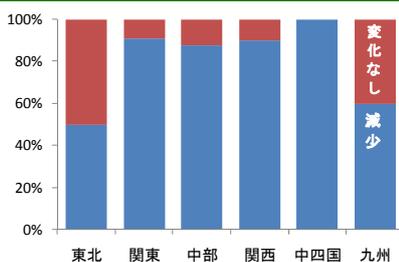


図. 地域別サシバの生息数の変化状況。

加しているという答えはなく、多くの答えは減少しているというものでした。いつからサシバが減りはじめたかという問いにも、この十年で減り始めたという答えが一番多く、サシバの生息状況は現在も悪化し続けているようです。ただし、東北地方と九州地方では個体数に変化はないという答えも多く含まれているので、他の地域と比べて生息状況は良さそうです(図)。

2. 減少の原因は?

サシバの減少の原因としては、開発と耕作放棄をあげた方が多くいました。10年前までは開発が最大の原因でしたが、近年はバブル期の開発もおさまり、耕作放棄が大きな問題になっているようです。さらに捕食者の影響をあげる回答も増えており、カラス類やオオタカなどがサシバの繁殖に影響を及ぼすようになっているようです。

3. 情報をお持ちの方は協力をお願いします

このように、今回のアンケートからサシバの現状と保護上の問題点が見えてきました。しかしまだ情報の薄い地域もあり、そのような場所の情報の収集が必要です。また、サシバの生息環境と繁殖成績の関係などについての解析が必要と考えています。そのような情報を取りまとめて公表し、サシバの保護活動につなげていきたいと考えています。

以下のホームページより、十年前のアンケート結果の閲覧や、アンケートへの参加をすることができます。もしサシバについての情報をお持ちの方は、ぜひアンケートフォームより送信ください。よろしくお願ひいたします。

■ サシバアンケート調査 入力ページ
<http://www.bird-research.jp/sashiba/>

活動報告

ガンカモ・シギチ通信を発行します!

バードリサーチニュース2008年4月号でお知らせしたように、環境省が実施しているモニタリングサイト1000のシギ・チドリ類調査とガンカモ類調査の事務局をバードリサーチが務めることになりました。そこで今月から、調査結果やガンカモとシギチドリについての最新トピックスを掲載したニュースレター「ガンカモ・シギチ通信」を発行します。年3回程程度の発行予定で、調査参加者の皆さんや自然観察施

設には印刷したニュースレターをお送りし、発行から3ヶ月を過ぎるとホームページにもPDFファイルを掲載します。

現在は前身のニュースレター「ガンカモ・ニュース」を下記のアドレスでご覧いただけます。【神山和夫】

http://www.bird-research.jp/1_katsudo/moni1000/gankamo/newsletter.html



マダラウミスズメ 英:Marbled Murrelet 学:Brachyramphus marmoratus

1. 分類と形態

分類: チドリ目 ウミスズメ科

アジアに生息する種と北アメリカで生息する種は亜種ではなく別種であるという説があり、アジアに生息する種の方が、嘴も長く体重も重い (Friesen *et al.* 1994).

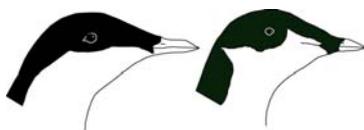


図1. アジア種(左)と北アメリカ種(右)の冬羽と嘴の長さの比較.

翼長(北アメリカ):	♂ 128-140mm	♀ 122-139mm
翼長(アジア):	♂ 136-147mm	♀ 130-145mm
嘴峰長(北アメリカ):	♂ 13.2-17.4mm	♀ 13.7-17.6mm
嘴峰長(アジア):	♂ 18.9-22.2mm	♀ 18.0-21.0mm
ふ蹠長(北アメリカ):	♂ 15.1-17.6mm	♀ 13.9-17.3mm
ふ蹠長(アジア):	♂ 17.0-18.7mm	♀ 16.8-22.2mm
体重(北アメリカ):	♂ 196.2-252.5g	♀ 188.1-269.1mm
体重(アジア):	268-357g	

※Sealy 1975, Shibaev 1990, 黒田・柿沢 1982 による.

羽色:

夏羽冬羽とも雌雄同色。夏羽は、翼の基部に白帯がある。背面は少し褐色がかかった黒色、腹面は喉から腹まで黒色の斑点がある。この斑点の濃さや密度には個体差や年齢により差異があるようだ。筆者は、全体が黄色味の強いトラツグミのような色の個体を一度見たことがある。冬羽は、背面は夏羽とほとんど変わらないが、腹面は白色になる。



写真1. 2004年9月12日に斜里町前浜で保護後すぐに死亡した個体

鳴き声:

フィーフィーとウソの地鳴きを高くしたような鳴き声だが、他の個体と呼ぶときは、ヒフィーヒフィーとより甲高く長く鳴く。また、ディスプレイではお互いにフィヒーフィヒーと鳴く。

2. 分布と生息環境

分布:

繁殖期は、アジアでは北海道・千島列島・サハリン・日本海沿岸のロシア沿海地方からカムチャツカ半島まで分布し、冬期には本州南部まで分布する。北アメリカでは、カリフォルニアからアラスカのアリューシャン列島までの北太平洋沿岸で繁殖する。サハリンでは、35か所の繁殖地が発見された (Konyukhov & Kitaysky 1995).



図1. アジア種の分布.

繁殖環境:

アジア種のサハリン島での記録では、島の内陸0~30kmの平地や山地の針葉樹林や針広混交林で繁殖する (Nechaev 1986). 国内では唯一、1961年に北海道の藻琴山山麓で繁殖の記録がある (関根 1987). オホーツク海から内陸に、約20km入った林内の地上で抱卵しているところを捕獲したというもので、藻琴山の環境は針広混交林で主にアカエゾマツとダケカンバの林である。アカエゾマツの横枝にはコケが生えサルオガセが付着している環境であった。記録では地上巣となっているが、この種の卵数は1個であるにもかかわらず、3個の卵を採集したと記録されている。このことから、地上巣は本種のものではなく、ここで繁殖していたとしたら、恐らく本当の巣は針葉樹上にあつた可能性が高いと考えられる。

3. 生活史

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖システム:

越冬期 繁殖期 渡り

一夫一妻と考えられている。

巣:

北アメリカ種では、針葉樹林のコケ生した針葉樹の大木の横枝などに体重により窪みをつくりそこに産卵する。樹木のない地域では、岩の隙間などの地上に産卵する。

アジア種では断片的な情報が多いが、ロシアで発見された4巣はすべてカラマツ林の中で発見された。オホーツク市周辺のKukuchtui川流域で発見された巣は、海岸から6kmの地点にあり、カラマツの小枝が奇形によって数本重なり、そこにコケ類が生えた場所にあつた。巣の高さは、地上から7mであつた。サハリンで発見されたものは、海岸から2kmの木の梢が約5mの所で折れている場所で見つかった。

卵, 抱卵期:

一腹卵数は1卵で、長径56~66mm, 短径約39mm. 重さは約50g. 北アメリカ種では、抱卵期間は28~30日。抱卵は雌雄で等しく行われ、抱卵の交代は24時間ごとに夜明けに行われる。親鳥が巣に帰巣するときは、飛翔しながら鋭い甲高い声を発する。ロシアでは朝5時から7時までで鳴き、8時を過ぎて鳴いていることは少ない (Nechaev 1986). その事から早朝に巣に帰巣していると考えられる。

育雛期, 巣立ち:

成鳥がヒナに餌を運ぶ時期からおおよその孵化時期が推定できる。繁殖地域の南部では育雛期は6月上旬から7月下旬、北部では7月下旬から8月下旬にかけて魚を運ぶ鳥が観察された (Shibaev 1990).

北アメリカ種のヒナは27~40日齢で成鳥の58~71%の体重で巣立つ。国内では、1982年8月25日小清水海岸において捕獲された5羽のうち4羽が幼鳥だったことから、この時期にはヒナは巣立っていたと考えられる。巣立ちの時は、巣から海まで一気に飛翔すると考えられている。

4. 食性と採食行動

繁殖期は、通常1羽かつがいで行動する。オホーツク海の南西の海岸付近では、200~300mから2~3kmくらいまでの

沖合いで採餌する(Babenko & Poyarkov 1987). アムール礁湖では、淡海水が広がっている水深1~10m, 岸から5~10kmまでの辺りで採餌する(Shibaev 1990). 国内では、知床半島中央部北部のルシヤ湾・小清水海岸・斜里町前浜・峰浜、知床半島南部の羅臼町峯浜などで繁殖期に観察されている。これらの地域の共通点は海底が砂地で比較的浅い海域であった。これは、食物であるイカナゴが多く生息している海域であるとも考えられる。

5. 興味深い生態や行動, 保護上の課題

● ディスプレイ

2羽で並んで嘴を上下させながら泳ぎ、時折同時に潜ったり、驚くように飛び立ち、1羽が一方を追う追尾飛行を行う。また、鳴き交わしながら、2羽が接近して泳ぎ、2羽同時に嘴を上下させ、一方がもう一方の周りをクルクル泳ぐ。

● これまでの調査と結果

1998年から営巣地の探索と海上での分布状況の調査を開始した。1998年には知床半島中央部のルシヤ周辺で7例の観察のほか、つがいによるディスプレイも観察することができた。そのため知床半島のどこかで繁殖しているのではないかという希望もあった。しかし、その後は、目撃するのにも困難な状況になった。

その後、2007年にパタゴニアの活動助成を受け本格的に調査を再開した。この調査によって4月29日に知床岬に近い羅臼町側で飛び立ち、海岸に沿って南に飛行する1個体を、4月30日には羅臼町峯浜の沖約2kmで海上を泳ぐ1個体を発見した。さらに、7月29日には羅臼町峯浜の沖約4kmで海上を泳ぐ2個体を発見した。2羽はフィッター・フィッターと鳴きか交わしながら少し飛ぶと着水するというディスプレイ行動を繰り返した。しかし、1998年に頻りに観察されていた知床半島斜里町側のルシヤ周辺では全く観察されなかった。

一方、「ビザなし専門家交流」で北方領土の国後島と択捉島で調査をしたところ、2002年と2003年に択捉島で7羽、国後島で5羽を観察した。また、現地のロシア人から「海岸から陸地に向かって飛んでいく鳥を目撃した」とか、「陸地で鳴き声を聞いた」という繁殖に結びつく情報が得られた。また、海上からの観察ではあるが、森林には針葉樹の大木が多く、横枝に苔類が付いた巣台に向く樹木が多く見えた。特に国後島北部の爺々岳の山麓と択捉島のカラマツ林などの針葉樹林には営巣に適した環境が多くみられ、これらの場所では現在も繁殖している可能性は高い。

● 繁殖地の破壊

知床や北方領土で繁殖している可能性が示唆される一方で、アジア種の最大の繁殖地であるサハリンでは、森林

伐採や油田開発などの大規模開発が進行中であり、生息地の改変が心配される。また、国後島や択捉島においても、経済発展を続けるロシアが開発を進めており自然破壊が心配されている。

今後、マダラウミスズメの営巣地が北方領土や北海道で発見されれば、海と森林を合わせた環境保護のシンボルとなると考えられる。何としてでも、マダラウミスズメの営巣地や詳しい生態を解明し、環境保護を進めたい。

6. 引用・参考文献

- Babenko, V.G. & Poyarkov, N.D. 1987. Short data on rare species. Marbled Murrelet on the south-east coast of the Sea of Okhotsk. Il'yashenko, V.Y. ed. Problems of rare animals protection. 149-151. (in Russian)
- Fresen, V.L., Baker, A.J. & Piatt J.F. 1994. A molecular investigation of evolutionary relationships within the Alcididae(abstract). Pacific Seabirds 21:39.
- Konyukhov, N.B. & Kitaysky, A.S. 1995. The asian race of the marbled murrelet. Ecology and conservation the Marbled Murrelet. Diane Publishing Co. USA. 23-29.
- 黒田長久・柿沢亮三・関根正行. 1993. 北海道オホーツク海沿岸のマダラウミスズメ(日本鳥学会年次大会一般講演)要旨. 鳥32: 175.
- Nechaev, V.A. 1986. New data on the seabirds of Sakhalin Island. Livtinenko, N.M. ed. Seabirds of far East. Vlandivostok, USSR: Akademia Nauk, SSSR. 71-81. (In Russian; English translation by Siegel-Causey, D.).
- Seay, S.G. 1975. Egg size of murrelet. Condor 77:500-501.
- 関根正行. 1987. 北海道小清水町に於けるマダラウミスズメの生態と繁殖について. 小清水の野鳥. 小清水町教育委員会. 135-140.
- Shibaev, Y.V. 1990. Marbled Murrelet. Flint, V.E. & Golovkin, A.N. eds. Birds of the USSR: Auks (Alcidae). 82-88. (in Russian)

執筆者

福田佳弘 知床海鳥研究会代表

マダラウミスズメを調査してもう10年以上になりました。営巣地を探し出して、なんとか保護への一歩をと思っていましたが、今では、海上で見つけるのも難しくなっています。もっと早く、20年以上前に行動を起こしていれば、成果が上がっていたかもしれません。起死回生の9回満塁ホームランのような結果を期待して調査を続けたいと思っています。本稿の執筆には、日高真帆氏と大槻都子氏に英文翻訳のご協力をいただきました。ありがとうございます。



写真1. 1998年ルシヤ川河口沖に出現した個体(夏羽).

お知らせ

事務所が移転します！

バードリサーチの事務所が移転します。事業もスタッフも、調査道具も年々増えてきて、今の事務所では手狭になってきていました。そんなわけで少し前から、「将来は引っ越さなきゃいけないかねえ」と話をしていたのですが、少し探し始めてしまったら、引越し気分が盛り上がってしまっただけで、決断と行動が早いのが売り？のバードリサーチです、さっさと引越し先を決めてしまいました。



写真.
新しい事務所の外観(上)とリフォーム中の内装(下)。外は古めかしいですが、中は綺麗な事務所に変身してくれるでしょう。

新しい事務所は契約が決まってからリフォームすることになっていた物件で、こちらの要望も入れていただけるといことと、駐車スペースがあるのが気に入りました。広さは今の1.5倍ぐらい。もとは店舗だったテラスハウス風の建物で、1階にパソコンを並べる事務所スペース、2階にキッチンともう一部屋あり、こちらで打ち合わせをと考えています。

場所は京王線沿線の中河原駅の傍で、駅からは徒歩3分ほど。特急は停まりませんが、少し新宿に近づきました。引っ越しは6月30日です。7月からは新しい事務所で活動を開始します。お近くにお越しの際は、ぜひ、新しい事務所にも遊びに来てください。

■新住所(2008年7月～)

〒183-0034 東京都府中市住吉町1-29-9

Tel/Fax 未定



京王線中河原駅から新事務所までの案内図。

お知らせ

2009年カレンダー用写真募集！

2008年に引き続き、来年2009年用のカレンダーを作成することにしました。少し早いですが、カレンダー用の写真を、会員の皆様から募集したいと思います。

写真は右記の要綱に沿ってお送りください。写真が多数集まった場合は、同じ季節の写真の中から、構図や画質などを踏まえて選ばせていただきます。複数の写真をお送りいただく際は、季節や色合いの異なる写真を選んでいただくと、嬉しいです。ご協力、よろしくお願いたします。



卓上カレンダーのデザインイメージ。

● カレンダー用写真の送付要綱

- 送付方法: メールタイトルを「カレンダー用写真送付」として、写真をメールに添付してお送りください
- 写真送付先: 卓上カレンダー 担当 高木憲太郎
(takagi@bird-research.jp)
- 締め切り: 8月31日
- 写真テーマ: 日本の小鳥(小鳥以外の写真でも受け付けます)
- 枚数: 1人4枚まで
- 解像度: 縦1200×横1800ピクセル以上
- ファイル名: 撮影年月、種名、撮影した都道府県、撮影者名例)「200806スズメ東京都高木憲太郎.jpg」
- ファイル形式: JPEG
- 選定: バードリサーチのスタッフで選ばせていただきます
- 特典: 写真を採用させていただいた方には、写真1枚につき、カレンダーを3部を差し上げます

バードリサーチニュース 2008年6月号 Vol.5 No.6

2008年6月17日発行

発行元: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒191-0032 東京都日野市三沢1-26-9 森美荘 II-202

TEL & FAX 042-594-7379

E-mail: br@bird-research.jp

URL: <http://www.bird-research.jp>

発行者: 植田睦之

編集者: 高木憲太郎